

# 高校柔道指導者における

## 選手との心理的距離感が競技成績に及ぼす影響について

井手 拓朗 (広島大学)

### 1. 目的

本研究では、自主性や主体性の育成において重要であると考えられている高校期における柔道部活動指導の現状を把握し、高校柔道指導者と選手との心理的距離感が競技成績に及ぼす影響を明らかにすることを目的とした。

### 2. 研究方法

- 1) 対象者：高校柔道指導者 41 名
- 2) 調査方法：Google フォーム
- 3) 分析方法：各質問項目の単純集計・心理的距離感の規定因子別集計・各質問項目と心理的距離感との相関について分析を行った。その後、指導者を選手の競技成績・指導者の役職・指導者の部活動指導歴ごとに分類を行い、同様の分析を行った。

### 3. 結果と考察

#### 1) 高校柔道指導者について

心理的距離感の規定因子別集計の結果から、自己開示と期待の因子が、他の因子と比較して高い値を示した。また、各分類時においても高い値を示していた。これらのことから、高校柔道指導者は、選手の競技成績や指導者の役職、指導者の部活動指導歴問わず選手に対して期待を持ち、自己を開示し、指導を行っている傾向にある。

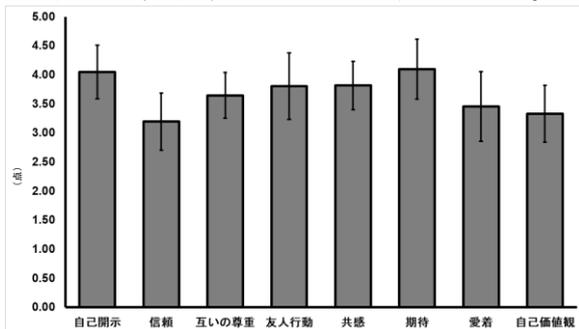


図 1. 心理的距離感の規定因子別集計

#### 2) 心理的距離感と競技成績について

成績別の各質問項目と心理的距離感との相関において、上位指導者のみ選手の意思を尊重できている傾向が見られた。清野ら (2023) は、国内トップレベルの競技力を有する生徒は、「優しさを備え、選手と対等な存在でありながら厳しさを伴い、心理的安全性を共存できる指導者」を理想としていると述べている。また、上位指導者の回答に、会話の中で選手の意見を聞くことが重要であるという回答が見られた。これらのことから、心理的安全性を共存したうえでの、選手との意見交換が、選手の意思尊重や競技成績に繋がっていると考えられる。

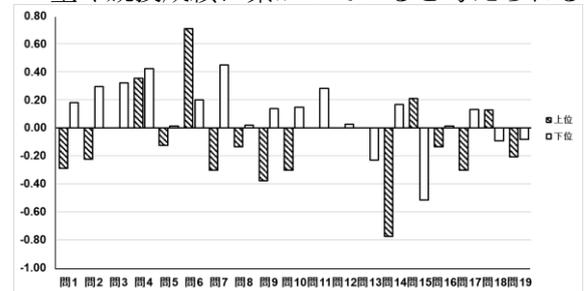


図 2. 成績別心理的距離感との相関

### 4. 結論

本研究の結果、高校柔道指導者は、選手に対して期待を持ち、自己を開示し指導を行っていることが明らかとなった。更には、心理的安全性を共存したうえでの意見交換が、意思の尊重や競技成績に繋がっていることが明らかとなった。

### 5. 主な参考文献

- 1) 清野隼ほか (2023) 全国トップレベルの競技力を有する高等学校硬式野球部と駅伝部に求められる指導者像：所属する生徒へのフォーカスグループインタビューを基に。体育学研究, 68, pp191-208.